

平成21年度第2回  
練馬区における「放課後子どもプラン」  
運営委員会会議録

平成21年12月17日

# 平成21年度第2回練馬区における「放課後子どもプラン」運営委員会

平成21年12月17日（木）午後6時30分から

練馬区役所本庁舎5階 庁議室

## 次 第

開 会

1 生涯学習部長 挨拶

2 練馬区第二次放課後子どもプラン（素案）……………資料1

3 意見交換

（1）「放課後子どもプラン」（第一次）の取組状況

（2）練馬区第二次放課後子どもプラン

4 その他

閉会

（資料）

資料1 練馬区第二次放課後子どもプラン（素案）

○事務局 計画調整担当課長でございます。本日はお忙しいところ、また、年末にもかかわらずご出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから、平成21年度第2回練馬区における「放課後子どもプラン」運営委員会を開催いたします。まず、事務局から委員の出席状況についてご報告させていただきます。

○事務局 事務局から本日の出席状況のご報告をさせていただきます。本日2名から欠席のご連絡をいただいておりますので、現在の出席状況は12名でございます。以上です。

○事務局 それでは、続きまして次第に基づいて進めさせていただきたいと存じます。まず、次第の1でございます。生涯学習部長より皆様にご挨拶させていただきます。

○部長 皆様こんばんは。今、司会の方で言いましたけど、本当に寒い中、年末ということでお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。子供たちの様子ですけれども、インフルエンザですけれども、今、練馬区は終息に向かっている感じですよ。10月15日ぐらいがピークで、11月も結構休みが多かったですけれども、月曜日にたくさん休みが出てしまうんですね。「あれ？親御さん連れ回したんじゃないかな？」なんて言っていました。一番長いところは、9日間連続で学級閉鎖が2つぐらいの中学校であったということで、私ども大変心配していたのですが、今は落ち着いて来たのかなと思います。学童クラブはこの間もやっていたのですが、ひろば事業については9月1日から11月30日まで、「とりあえず学級閉鎖が出たらやめてね」ということでお願いをしていたのですが、12月1日からは学童クラブと同様に学校と相談しながら、学校に来ている子供の放課後をひろばでやりましょうね、ということをお願いをしています。ありがとうございました。

本日、平成19年から平成21年の練馬区の放課後子どもプランの第一次が今年度で終了しますので、第二次計画を作りたいということで、庁内でまとめたものを素案という形で今日お見せしていますので、ぜひ皆さんの忌憚のない意見をいただければと思います。これは議会の方からも、「現在やっている連携を深めると、最終的にはどこに行き着くの？」という疑問もあります。一方で、「親御さんが保育できないから学童で、保育できる子はひろば」という考えもあるのですが、親御さんが見られるか見られないかは別として、子供にとって放課後の居場所はどういうものがあるのだろうか、そうすれば歴史のある2つの制度を並べるのではなく、な

んとか連携を深める中で知恵を出して、1つの何か別のやり方があり得るのかな、そういうものをぜひ検討して欲しいというお話は、議会等からもいただいています。ただ、今日の二次計画の中では、一次の取組の状況とか、二次に向かってさらに連携を深めましょうね、ということの主眼に放課後子どもプランを作っておりますので、ぜひ多くの意見を聞いたうえで、何がふさわしいのかというものをさらに深めながら、時間をかけながら進めさせていただければと思いますので、今後とも一つよろしくお願ひしたいと思います。

私、この後、忙しいふりをして申し訳ございませんけれども、次の会合がありますので、後で追いかけて文句を言いに来てもいいのですが、いろいろお話を後で聞きますので、ぜひ気持ちを楽しにして、何を言ってもいい会だと思ひますので、座長のほうで上手に仕切っていただけるということでもよろしくお願ひしたいと思ひます。長々となりましたけれども、今後とも一つよろしくお願ひいたします。

○事務局　　今、部長が申しましたとおり、他にもまだ会合があるということでございますので、退席させていただきます。

これより座長に運営委員会の進行をお任せいたします。よろしくお願ひいたします。

○座長　　それでは、お手元の次第に従って進行させていただきます。先ほど部長から「うまくまとめてくれ」というようなプレッシャーをかけられましたけれども、うまくまとまるかまとまらないかは皆さん次第でございますので、一つよろしくお願ひいたします。申し訳ございません。それでは、まず、本日の会議の進め方について、事務局から説明していただければと思ひます。よろしくお願ひします。

○事務局　　それでは座って失礼いたします。まず、連携実施のマニュアルの作成にあたりまして、運営委員会の皆様にはいろいろとご意見をいただきまして誠にありがとうございます。おかげさまで、マニュアルにつきましては、10月に学校・学校応援団・学童クラブへ配付することができました。現在、連携実施拡大予定の小学校17校について、順次、関係者にお声かけして進めているところでございます。

また、現在の「放課後子どもプラン」につきましては、平成21年度で一旦計画が終了となります。今後は平成22年度以後の計画として「第二次計画」を作っていくということになってございます。

本日の会議におきましては、庁内でこれまで検討してまいりました「第二次放課

後子どもプランの素案」につきまして、委員の皆様からご意見をいただいて、プランに反映させていきたいと考えておりますので、本日はどうぞ忌憚のないご意見をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○座長 ありがとうございます。ただいま会議の進め方についてご説明いただきましたけど、特に皆さんから問題がなければ、その会議の進め方について、ご説明のとおりお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは次第の2番ということで進めさせていただきたいと思いますが、その説明を事務局からご説明いただければと思います。

○事務局 それでは、私から、第二次計画の素案についてご説明をさせていただきます。皆様のお手元に素案がありますでしょうか。この素案ですが、大変恐縮です、直近での配付ということで十分にお目通しできるだけの時間があまりとれなくて大変申し訳ございませんでした。それではこの素案に沿いまして説明をさせていただきたいと思います。この第二次計画の素案ですが、まず、はじめに第一次計画の取組状況、それと第二次計画ということで2つに分かれてございます。通して順を追って説明をさせていただければと思います。

まず、お手元のプランの表紙につきましては、22年度から24年度ということで表記しており、その下に策定年月日が入るのですが、平成22年〇月ということで、策定の月が入るということでご理解賜りたいと思います。

次のページ、目次の次ということで、1ページ「はじめに」というところから順を追って読み上げさせていただきたいと思います。

**【資料1「練馬区第二次放課後子どもプラン（素案）」の説明】**

○座長 ありがとうございます。今、大きく分けて2つのことについて連続してお話いただいたので、ちょっと頭の中が混乱して整理されていないと思いますけども、順を追って進めていきたいと思います。まず、放課後子どもプラン第一次の取組状況についてご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

○委員 取組状況とまとめということで、大変成果が上がっているということで書いてあると思います。応援団の設置についても順調に数が増えていて、ひろば事業、その他連携事業についても増えているということで、すごくいいと思うのですが、前回の20年3月の第一次の子どもプランの方には「利用者数の見込み」というものがありますね。ひろば事業については登録児童の15%、学童クラブの方は出席率8

0%として見込みを算定していますよ、ということで、19年・20年・21年の見込みが書いてあるのですが、この辺のことについて、見込みがどうであったのかということについては、今回の一次の取組状況には載せないのかどうかということをお聞きしたいのですが。

○座長       ご説明いただけますでしょうか。

○事務局     利用者数の見込みについて、当初第一次計画については3年度ということでそれぞれ載せてございます。これについては、今の段階では大変恐縮ですがまだ結果としては算定していないところがございます。載せる・載せないというところまで至ってございません。

○座長       続けてお願いします。

○委員       なかなか大変な作業だろうと思いますし、できていないというのものもあるかもしれませんが、21年度はまだ途中ですけれども、19・20年度については次回でも結構ですので見せていただきたいなと思います。こういう事業を実施している学校の数は着実に増えているけれども、実際にどれくらいの子供が利用しているのかということは凄く大事なことだと思うんですね。そのデータがあって、初めて課題としてひろば事業実施日数の拡充が必要であるということにも結びついてくるかなと思います。これだけの子供が来ているのだから、もっと日数を増やしていくことができるのではないかと、というふうにした方が、説得力が出てくると思いますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

○座長       ありがとうございます。各応援団でひろば事業をやっている、子供たちの出席状況を全部つけていますので、やろうと思えばできるので、その辺は計画的には大丈夫でしょうか。

○事務局     データとして把握してございますので、整理させていただきたいと存じます。

○座長       次回のときにデータが出てくるということで、よろしく願いいたします。他にご意見ございますでしょうか。

○委員       今、利用状況についてありましたけれども、その中において、学年別利用ですね、例えば1年生何名ぐらいとか、1年生から6年生までの学年別で利用状況がわかればと思いますけれども、そういったデータが出るものなのでしょうか。

○座長       私のところの学校もそうですけれども、学年別に全部出ていますから、可能ですよね。できたらそれぐらい分けていただければ。

- 事務局 学年別に集計させていただきます。
- 事務局 参考までに数値をお話しさせていただきます。ひろば事業をやっている学校の登録者数の平均とすると1校あたり約240人、全児童数に対する登録者数の割合は約50%ぐらいです。1日の参加者数は約52名、登録者数に対する参加者数の割合は約24%となっております。これらはいずれも今年の夏の状況です。またその後新たにひろば事業等を実施しておりますので、最終的にまとめましたら、次の運営委員会の中では入れさせていただきたいと思います。それともう1つ、学年別のものですが、以前まとめたものがありまして、ざっくりと言わせていただくと、小学校2年生から4年生が多い状況です。
- 座長 当初の実施状況の中でざっくりと状況を教えていただき、ありがとうございます。他にご意見ございますでしょうか。
- 委員 今のお話の内容にちょっと未来が入ってしまうのですが、未来を踏まえて計画を立てていると思うのですが、もちろん私立とかに行かれる方もいるし、区から外に出る方、または入ってくる方もいらっしゃると思うのですが、今、少子化でどんどん出生率も下がっていると思うんですね。例えば、今度の4月に1年生になる人数というのは分かっていると思うのですが、3年後はもう半分になっちゃうとか、そういうこともあるかもしれない。ひろばばかりやっても子供が少なくなってくる。小学校の吸収・合併とかの予定も全然ないのでしょうか。
- 事務局 練馬区におきましては、しばらく人口増が続きます。14歳以下のお子さんというのは、そんなに減らないという傾向が続きます。今、光が丘の中で小学校の統廃合が行われて、今度の4月から実施されるということでございますけれども、他の地域を見ても、もちろんお子さんが減っている地域もあれば、逆に増えてプレハブを作っている学校もございまして、地域のバラつきが非常に多いという現状でございます。まだしばらくはお子さんの数は減らない、減らないというかむしろ横ばいより若干上向きという感じかなという記憶はあるのですが。
- 座長 練馬区は、前にもちょっとどこかでお話を聞いたことがあるのですが、今おっしゃった通りの状況だったのではないかなど。他が凸凹減ったりしている中でも、練馬区は比較的子供の数はそんなに減っていないし、若干増え気味だということは部分的にあるんですね。
- 事務局 毎年東京都で5年後までの推計を出しています。練馬区分も来年度以降の推計が

出ておりますけれども、全体的にはほぼ横ばい。年度によって若干上がったり下がったりしながら、緩やかに将来的に下がっていくという状況になります。地域的に言うと、光が丘・練馬方面…中村小は別なのですが、が全体的には減っており、大泉・関町方面は逆に今増えている、そのような状況になっています。

○委員 高松小は応援団もモデル地区でやっていただいたり、来年度から小学校内に学童クラブができて、待機がなくなってみんなすごく喜んでおりまして、大変感謝しております。感謝している中で1つだけお願いがあるのですが。来年度、地区区民館の学童クラブは残りますよね。そんな中で、学校内の学童クラブのほうが時間が長いとか、いろいろ融通が利く部分で人気になるのではないかとされているのです。一応定員40人ということでお話いただいているみたいなのですが、柔軟に60人受けていただけるという話が出ていまして、そうすると残る地区区民館の学童クラブがものすごい人数が減ってしまうのではないかなという危惧がありまして。無くなってしまうのでしたらしょうがないですけど、両方併設されるときにはある程度バランスを考えてやっていただければありがたいです。

○事務局 今おっしゃった通り、高松小の中に新しい学童クラブとひろば室を併設した建物を造ります。クラブの運営につきましては委託するというので、事業者が決まったところでございます。事業者が行うということで、若干朝と夜の保育の時間が延長されてまいります。また、学校内ということで、そちらのほうにお子さんが集中してしまうという可能性もないことではないとは思っております。

今日、学童クラブの第一次の申込みの受付を締め切っております。あまりに地区区民館のほうが少ないということであれば、それはまたいろいろ考えなければいけないのですが、まだしばらくは地区区民館の学童クラブの利用者がいると考えてございます。

○座長 先々これからどうなのだろうかと、いろいろご心配なところもあるのかなと思っておりますけれども、このあと第二次の素案についてありますので、そちらの方に若干多く発言していただければと思います。そのベースとなる第一次の取組のほうのご意見をここで出し切っていただけるといいなと思うのですが、よろしいですか。

○委員 学童クラブとひろばの連携でよかったことは沢山あります。大北小は4月から始めて、すごくよかったと思っています。まさしくここに書いてあることが全て当てはまるなというのは実感しております。ただ、課題のところ、一番下に「ひろば



事業実施日の拡充が」って書いてあるのですが、これはどこから、やっぱり休みの日とか、そういう話になるのかなっていうのがすごく気になります。今回インフルエンザ等で結構休んだときに、スタッフの確保のところちょっと不安に思っているところがあります。学童クラブとの連携においては、先程も話したとおり、最近ほうまくいっております。

○座長 今年インフルエンザ等で学級閉鎖がちょっとあるとひろば事業全部中止ということで、随分お子さんもスタッフも困っていたということもお聞きしています。新たに12月1日からということで、学級閉鎖のときはその学級の子だけが来なくていい、他の子は来られます、学年閉鎖のときはその学年、学校閉鎖のときは全部休みだからということだったのでしょけれど、確かにスタッフの方がせっかく準備していて中止になるというのは…。スタッフはあまりかからなかったですね、インフルエンザに。心配していたのですが。意外と大人はならなかったようで。

他にご意見はよろしいですか。

次に進ませていただきたいと思います。次の方に時間を取っていただければと思います。それでは、第二次放課後子どもプランについてのご意見をお願いしたいと思います。今、素案ですので、これから皆さんからご意見をいただきながら、しっかりした案ということで作っていただければと思いますので、ぜひ皆さんから積極的にご意見いただければと思います。

○委員 すみません、今の勘違いだったかもしれないのですが、計画内容のところ、「実施日数を拡充していきます」って書いてありますよね。2日やっている学校、3日やっている学校に対して全日（週5日）やりましょうという理解でいいのですよね。私はもうちょっと夏休みだとかそういうときもやらないといけないのかなというふうに思っていました。勘違いでした。すみません。

○座長 現在は週3日だったり、そういうところも徐々に増やしていこうということでございますけど、基本的には学校がある日は全てやっていきたいということで進めているわけですね。学校によっては放課後にクラブが体育館を使ったりというのもございますので、なかなかその辺の調整が…。強引にその日にちを入れてしまうというのはなかなかうまくいかないもので、少しずつ話し合いながら進めているのではないかなと思っています。

○事務局 また参考数字で恐縮なのですが、今日現在ひろば事業を実施していただいている

学校が全部で46校あります。そのうちの5日間、平日毎日やっているのが21校、4日が1校、3日が7校、2日が6校、1日が11校という状況です。先ほど説明の中で、まずはプレスタートということで、1日からでもということで、お願いをしておりますが、慣れてきましたらやはり少しでも増やしていただければということで、こういう形で出させていただいております。

○委員 現実的に大きな学校は子供が大勢ですよ。教室がたくさんある学校はできると思いますけれども、大きな学校は意外と空き教室がない。そこでひろば事業を始めるとなると場所がない。登録者数は当然大きな学校ですと5割登録しても何百人にもなるということで、現実的に大規模校ほどひろば事業ができないのではないかなという懸念があります。

それとまた、日にちを増やす、本校の場合は2日しかしていませんけれども、スタッフの数が少ないと日にち増えませんね。それでここの目標が全校、65校実施となっていますけれども、これ、私は不可能ではないかなと思っています。可能だという計画の下で動いていますか。

○座長 いろいろ各学校の状況をつぶさに担当の方は見ていただいていると思いますけれども、今お話ありましたように、スタッフの確保と、あと大規模校と言いますか、居場所の「場所」ですね、ひとつの部屋だと満杯になってしまったり、部屋が足りるのかということがあったり、いろいろ問題もあったのですが、その辺が今回の中ではどういう解決をされてきたのかなと思いますけれどもいかがでしょうか。まだまだ課題が残っているでしょうか。

○事務局 目標設置数、22年度に全校ということですがけれども、確かにご指摘のとおりお部屋の確保がなくしてひろば事業はできないわけなのですが。実はいろいろと各学校で工夫をしていただいております、会議室とか和室などを利用させていただいております。そういった中で、制限は当然ございます。今後の課題でもあるかと思っておりますけれども、放課後に一時的に使える部屋をまずは確保してひろば事業を実施していくということで進めております。そういう意味では、目標としては22年度全校でということでも進めてまいりたいと思います。

また、今回ひろば日数にバラつきがあるということですが、この要因としては、先ほど委員が言われました、当然人の確保もございます。ひろば室も、大北小の場合は新たにできましたけれども、固定のひろば室がないほうが多いという中でひろ

ば事業を実施していますので、ひろば室を曜日によっては確保できないということもあります。

また、授業等でどうしてもできない、またはクラブ活動で、実は人（スタッフ）は確保できて1週間できるのに、ある曜日だけはどうしても使えないといったことなど、ソフトの面やハードの面の理由により、学校によって様々です。そういった中で、段階的に解消できる部分については解消していきたいということでは、スタート時から5日というのは難しいので、1日から無理なくスタートするという前提で、22年度全校立ち上げて、23年度までにスタートできる見込みで進めていきたいということです。

○座長 今心配されているのは、おそらくどう見たって難しい学校もあるという話も伺うときがあるのですが、どの学校でもおそらく空き教室なんてないよ、というのはあると思うんですね。いろんなことで利用しなきゃ、子供たちの教育のために利用するというのであれば、その辺はなかなか住み分けが難しいかもしれないし。学校のほうもどんどんどんどん子供が減ってくる地域は教室も空くかもしれません。2クラスが1クラスになったりして空き教室ができたのではないかなとか、そこを利用できるのではないかなということもあったり。そういう学校ばかりじゃなくて、増える学校もあったり。その辺が今後の予想もあろうかなと思うのですが。区としては、これはどうしても部屋を作らなきゃ駄目だろうというところはあるのでしょうか。

○事務局 ひろばのための施設ということについては、なかなか整備するというのは難しいと考えています。やはりいろいろな教室を利用する方向で行かざるを得ないのかなと考えています。今年2校学童とひろばと併設したところが出てきていて、また来年の4月になると5校が増えてくるのですが、学校の場所的に恵まれた条件があるとそういうことになるのですが、なかなか実際には見当たらないのが現実でございます。

いずれにいたしましても、学校の先生方にもこのひろば事業の趣旨を十分に理解していただいて、学童クラブとの連携の必要性ということ、やはり皆さんにこういういろいろお話をしながら、少しずつその辺はどういうふうにやったらいいのかということについて、実際の方法については事務局と学校側と十分調整させていただきながら進んでいくという、そういうのが今の実態でございます。

- 座長 皆さんのほうからご意見あるかと思いますがいかがでしょうか。何度でも発言していただければと思います。学校側のほうはいかがでしょうか。
- 委員 3月の去年度の最後の会で、副座長だった方が、「うちはすごく大きいんだ」と。「900人を超える子供がいて、教室は満杯で家庭科室でやらざるを得ないけども、どうなるか心配だ」という話をしていたのですが、あれ本当に僕も気になって「どくなっちゃったんだろう」と思うのですが、大二小大丈夫ですか。
- 事務局 家庭科室を使っていて、週1日ですけれども、児童数が多い分、登録も多いと。ただ、週1回ということでは、フルでやるよりは登録数は少ないのですが、家庭科室で始める際に工夫をさせていただいています。なるべくカバン（ランドセル置場）がおけるスペースを確保する整備をし、少しでも活動場所を確保しつつ、あとは運営上でカバーしつつ実施させていただいているところです。当然部屋はそこしかないなので、窮屈な部分もあるかと思いますが、体育館を利用したりとか、ひろば室1つで運営しているわけではないので、図書室とかを活用してスタートできたという状況であります。ただ、先ほどの日数の拡大ということでは、すぐにはできない部分もあるかと思いますが、徐々に整備も考えつつ進めていく必要があるだろうというふうには思います。人的には十分地域の方々にご協力いただいて、組織としてはきっちり立ち上がっているところなので、あとはハード的な部分ということでは一つ課題ではあるかとは思いますが。
- 委員 この子どもプランの（資料）はすごくよくできているなど、読ませていただいて思いました。実施マニュアルのほうも細かく作って出来上がって、これも整備されたということで、やる時にはすごく役立つなと思いました。前のときのもの比べて、「Ⅰ 基本方針 Ⅱ 計画期間 Ⅲ 計画内容」となっていて、前のマニュアルの方では「事業内容」となっていたと思うのですが、事業と計画はあまり深い意味はないのですか。
- 事務局 今回の放課後子どもプランというのは、例えば応援団を22年度までに設置するか、校外から学童クラブを移すとかを、基本方針として、プランのメインである連携の前提のような位置づけとしていたんですね。プランとしては主に連携を計画化し事業内容としていたのが今までの子どもプランで、そのために連携の事業の中身はこうですよ、という出し方をしておりました。そのため、この基本方針の中にある、応援団の設置やひろば事業の実施などは、計画としての位置づけが曖昧になっ

ておりましたので、今度は計画内容として、これらをひとつひとつすべて計画として出す形でまとめなおさせていただいております。

○副座長 いろいろお話をお伺いしまして、今後学童クラブとひろば事業が連携ということが進んでいかれるという中で、やはり成果と課題というのが出てきます。先ほど第一次の中に課題という部分が3つしかありませんでした。しかしながら、連携がかなり進まれている中で、課題というのはいくつでも済んでいないと思います。やはりその課題というのを、今やられている方たちの中から、共通課題としていろいろ出していただいて、これからやる方たち、さらに今やられている方たちの共通課題として、認識としてオープンにさせていただきたい。それを話し合うという形、とりまとめというのはなかなか難しいと思いますので、アンケートという形でも結構ですけれども、今後会議の中で共通認識を、皆さんとその話をしていったほうが話が早いのではないかというような感じもします。ぜひそのアンケートを取っていただければより分かりやすくなるのではないかと。これはあくまで提案なのですが、よろしくご検討をお願いします。

○座長 今まで学童クラブとひろば事業とで連携しながらやってきた中で、いろいろ問題もあったのではないかと、またこうしたらいいのではないかとということがいろいろ出てきていると思うのですが、その辺はアンケートも含めて、いろんなご意見があるのではないかと。それを集計できないかどうかと。いかがでしょうか。

○事務局 まずモデル実施する中で、一度アンケートを取らせていただき、それらを踏まえて成果としてまとめさせていただきました。また、課題についても、3つという少ない数ではございますが、まとめさせていただいたところでございます。

また、今年度は16校から33校に拡大し、モデル実施校は本格実施し、プラス新たな17校については今連絡会議を1校ずつお声かけさせていただいて立ち上げているところです。スタートがかなり遅れてしまったこともあり、今やっと6校で連絡会議を立ち上げました。さらに来年1月何校か予定をしているところでございます。今年度拡大する学校については期間が限られてしまいますが、今後も拡大ということでは続けてまいります。そんな中、今後もアンケートをとり、実態を把握しつつ、皆さんの意見も聞いていこうということで進めていきたいと考えております。「いつ」ということは今の段階でははっきり申し上げられませんが、今回の17校拡大に伴ってアンケートをとるのは年度末になってしまうのかなと思います。

第二次計画に直接反映できるかどうかというところは難しいかと思いますが、連携実施マニュアルに反映していきたいと考えております。

○座長       ありがとうございます。たまたま私のところの小竹小学校も昨日連携会議で説明いただきまして、やはりスタッフの人たちは初めて聞いたようなこともありました。学校によって校内に（学童クラブが）ある学校、校外にある学校、また校外にある場合には1つの学童クラブが1つの学校だったらいいのでしょうか、2つも3つも分かれている、その場合は学童クラブから子供を連れてきて交流しましょうと言ったときには、当該学校の子供だけ連れてきて、あとの他の学校の子は連れて来ないで留守番してなくちゃならないのか。スタッフが連れて行ったりまた戻したり、そういうことをそんなに頻繁にはできないんだろうなど。校外にある関係で。昨日お話いただいたあと、皆さん頭の中が混乱して、どのぐらいの頻度でできるのだろうかとか不安もあるのだと思うのですが、その辺もアンケートを取って、安心して今後「そういうことだったら大丈夫かな」と、参考になるようなものになっていただければなと思っております。

          他に何かございましたらよろしく願いいたします。

○委員       私ども富士見台小学校は、併設型の建物を今年造っていただきまして、昨日プレオープンいたしました。私仕事がありましたので、昨日のオープンには行けなかったのですが。ただ、実質この計画を拝見していただきまして、やはりちょっと性急なのかなど。早いような気がします。先ほど来いろいろお話が出ていますけれども、富士見台のほうでももう教室が満杯で、校庭が狭い、その中でやっぱりひろばはきついのではないかとということで、今回学童と一緒にひろば室も造っていただいたのですが、それを造るにあたって、先生方も「これ以上また校庭が狭くなるの?」、保護者にも「そんなものいらないよ」という方もいて、教育委員会に直接文句を言うという方も実際おられました。やはり理解を求めるには、あまりに「何年度までに絶対やらなきゃ、やらなきゃ」というふうにどうも私には感じてしまうんですね。それこそ学童さんと一緒に連携していくということになれば、よりいろんな細かい問題が出てくると思います。それで、絶対「24年度までに完成」というのはちょっと早すぎるかなって。給食もできなくなるのではないかと、という小学校もある中で、まず本当に主たる学校の目的を果たした上でのひろば事業じゃないかと私は考えてしまいますので、その辺、一律に何年度までに練馬区の学校は全部しなきゃい

けない、とにかくお達しがあるからやらなきゃっていうと、やはりやらされているうちはなかなかいい案もあがってこないと思うので、私たちの中から、保護者の中から、また、先生方の中でも絶対必要だっていうような形になるような計画を立てていかないと。「何年度までにやりなさい」ってトップダウン的な感じでは、なかなか全ての人の理解が得られないのではないかというのが正直な感想です。

これからうちの学校のほうでもひろばをどんどん広げていこうと思うのですが、学校自体にも、保護者の中にも応援団に対する理解はまだまだ普及しておりません。いろいろ区報に載せていただいたり、うちの学校で説明会とかしていただいても、お見えになる方はごく一部ですし、区報を読まれる方もごく一部かもしれません。ですので、やっていることはすごくいいことだと思うのですが、もう少し時間をかけていただきたいというのが、正直運営する側であったり、スタッフとしてこれから関わっていかねばいけない人間の本音でございます。

「何年まで何年まで」「いい結果が出ています」「家庭科室もよくなっています」、これはたぶん表上だと思います。相当不満があるのではないかと私は思います。実際は家庭科室でやるというのはキツイと思いますし、空き教室を使うと言っても空き教室がない、各クラス、1年1組を使いましょう、1年3組を使いましょう、個人情報の問題もあります。先生方は絶対自分のクラスを使わせるのは嫌だと思います。そういうことも考えていただいて、もう少し時間をかけたやり方ってないのかなと正直思っております。

○座長　　いくつかやっていくうちにそういう声も随分出てきた中で、少しずつモデルケースからやってきたのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○事務局　現場ではいろいろな問題が起こって、性急ではないかというご意見も確かに伺うことはございます。また、片方では「何年度までに作るんだ」ということを言っていないと、動かないという側面もあるので、私どもも仕事をしながらいつも悩んでいるところでございます。

特に今回富士見台小につきましては、学童クラブとひろば室を造ったのですが、運営を事業者に委託するということがあって、さらにせっかくできたクラブ室にトルエンというのが基準以上に出てきてしまったということで、せっかく狭い校庭の中で造って、皆さん楽しみにいよいよ使えるぞというときに、そういうトラブルがあったものですから、本当に富士見台小の皆さんにはご迷惑かけたと実感しており

ます。いろいろなご意見もこちらにいただければありがたいと思います。どうしても役所ですから計画というのが片方でありますので、その辺の狭間の中で難しさはいろいろあるなと私ども感じているところでございます。

○座長       ありがとうございます。このモデル事業を最初からモデルケースとして積極的にやられた一番経験豊富な豊玉南小はいかがでしょう。

○委員       私どもの場合は、今特別な環境で、校舎改築中で校庭がない状況で、そっちで必死なので、ほかの皆さんとは状況が違うのですが。それは置いておいて、今回の第二次放課後子どもプランということで見ますと、とにかく応援団、ひろばを練馬区全校でということの推進が重視されているとは思いますが、それができないと当然連携もできないでしょうし、学童も校内に持っていかないと連携ができないということで、これは区の事業としてはやっていくことは非常にいいことだと思いますし、何よりも、長年やっていて子供たちにとってはとってもいい影響があると思っているので、それはぜひ進めていただくとことはいいと思います。

それと同時に、16年からやっているの、今の6年生が1年生のときに始めたのでもう6年経つのですが、6年ぐらい経ちますと、今度は新たな方策ということも第二次に入っているのですが、新たな方策というよりも、どうやって維持していくのかというのがとても大きな問題になると思うんですね。作ってしまうのは簡単ですが、それを維持していくのが一番大変なことだと思います。何が大変かというと、まずスタッフの確保ですね。始まってから引越しをされたりとか、お年になったりとかでやめられた方はいますけれども、新しく入った方というのは何人もいないんですね。たぶん1人か2人ぐらいだと思います。ほとんど固定メンバーで約6年続けているという状況です。それはそれでとてもいいことなのですが、10年20年皆さん元気とは限らないので、そういうことを考えると、当然人の入れ替えも入ってくるし。これはそれぞれの学校の応援団なりひろばで考えていかなきゃいけないことだと思うのですが、やっていることというのは人が少しずつ変わっていけば引き継いでいけるとは思いますけれども、それが子供たちに対するサービスレベルがどう変わってくるのか、そこが私は一番心配です。新たな方策ということよりも、どうやって維持をしていくか、子供たちに対するサービスという言い方は変かもしれませんが、対応方法ですとか、そういうことをどのように同じようなレベルで維持していくかということ、それをマニュアルにしようとかそういうこと



じゃないと思うんですね。受け継いでいかなきゃならないことだと思うのですが、何よりもそれが一番大事なことなのではないかなと私は思います。

○座長　　私の学校も実はスタートするときに豊玉南小学校に見学に行きまして、「本当にできるの?」と言ったら、委員さんの笑顔と、「大丈夫だよ」となんとなく自然にやっちゃっているところを見て「ああ、できるんだ」というところもありましたけど、おっしゃったように、何年かやっているうちに継続して維持していくというのが大変なんだなと思いました。その辺のノウハウを、またこのアンケートの中とか、いろんな中でも出していただけるといいかなと思います。親御さんも応援団に対してどんな見方をしているかというのも、やっているところで「いや、こんなだったらやんなくてもいいんじゃない?」という意見もあるかもしれません。

また、もし自分がスタッフだったら嫌だなとか、一般的だったら現役のPTAの人がスタッフをやっていくというのが多いのでしょうか、またこれを一般公募するとどういった問題があるのだろうかとか、その辺も含めて、アンケート取るとしてもいろいろなものを挟んでいかないと。ただ連携だけというだけでもないのかなと思うのですがいかがでしょうか。もっともっと皆さんからご意見いただければと思います。

○委員　　私はどちらかという計画するほうじゃなくて計画するほうに預ける親としての立場なので、ちょっと頓珍漢なことを言ってしまうかもしれないのですが、これって権限は区にあるのですか。学校にあるのですか。それとも学童ですか。混乱して今わからなくなってしまったのですが。

○事務局　　それぞれの役割を簡単にお話しますと、まず、学童クラブは学童クラブとして児童青少年部が運営します。それからひろばの方はひろばのスタッフに実際に動いていただきます。そのバックアップについては教育委員会の生涯学習課が行っております。そのように皆さんが連携する場を提供していただくのが学校という形になります。ですから、それぞれの役割に応じてそれぞれの権限の中でやっていくということです。全体を包括しているというイメージではなくて、まさに連携でございますので、自主的にいろいろ協力し合って物事を解決していくということで、そのための連絡会議を設けております。

○委員　　先ほどいろんな学校のことを聞いたのですが、私は学童クラブに子供が通っているので、基本的にひろばには参加していません。2年生なので。でも、今、月に

1回、学童クラブがひろばに参加しましょうということになりまして、子供は「ひろばってこういうところなんだ」ということもできるし、学童クラブ以外のお友達とも遊べるようになったので、私はとてもよかったなって思っています。

実際、今、兄が6年生でいるのですが、3年生まで学童クラブでお世話になって、じゃあ明日から4年生、行くところがない。いや、あるんですよ。ひろばはありました。ありましたけど、ひろばのシステムがもう4年生だから逆に恥ずかしくて入れなくて。行きたいけど、例えばここで名前を書くとか、ここに物を置くとか、そういうルールがわからないから、恥ずかしいから行かないっていうことになってしまいました。なので、今の私の子供の状況は月にたった1回ですけれども、どういう流れでひろばがやっているかというのがわかります。たまに保護者会とかで学校に行くときに「今日はどうする？学童行く？ひろば行く？それともお家帰る？」って言うと「ひろばに行く」とすんなり子供のほうが受け入れてくれたので、私は安心しました。来年から3年生で、一応クラブの申請が今日までだったと思うのですが、申請させていただいて、あと1年間はクラブのほうに籍は置くつもりではいるのですが、さて4年生になりましたっていったときの心配が兄のときに比べてなくなっているので、今の親としてはすごくありがたく思っています。

それで、このプランのところに書いてある「自発性・創造性を伸ばすことができる」というのが、どういう内容なのかがさっぱりわからなくて。学童クラブだと月に1回学童クラブのお便りがあって、「こんなことやりましたよ、あんなことやりましたよ」「ゲーム大会があって〇〇ちゃんが1位になりました、2位になりました」「今度はこういうのがあります」という内容がわかるし、もちろん連絡帳というやりとりがあるので、家庭内で保育ができないからクラブに預けているわけなので、状況が分かるんですよ。ただ、ひろばってどんなことをやっているのかがちょっと親としてはわからない。ただ「校庭があります」「家庭科室があります」という状況だと、もちろん見に行ったお母さんとかお父さんはどんなことをやっているかがきっと分かると思うのですが、「これから子供が1年生になります」「引っ越してきました」という人は「ひろばって何？何するの？」という感じなので、もうちょっと具体的にどんな遊びをするか、その学校だとかそれこそキャパとかによってやることも違ってくるとは思うのですが、そういう案内をしたらいいかなと。

それと、安全・安心っていうのはどの辺の安全・安心なのかもちょっとこれだと

「ふーん」っていうだけでわからないです。

あと、たぶん上小は週5日やっていると思うのですが、例えば週に1回しかやっていない学校とかとまた違ってくるのかなと。保険代、たしかうちの娘の場合は500円払った気がしたのですが、その辺も例えば週1回のところと5回のところと、払う親としては5日間預けている人と、週に1回しか預けていない、たかが500円ですけど、その辺もどうなのかな、なんて思ったりしています。

○座長 学童クラブから応援団のほうに切り替える、例えば小学4年生になったときとか、その辺をなかなか乗り切れないという難しさ、また連携の中でどうそこをクリアできるのかなというのもひとつあるのかなと思いますけども、区のほうとしてはいかがでしょうか。

○事務局 学童クラブの保護者の方から見ると、ひろばというのは一体何をするのだろうと。まさに今おっしゃったことですが、学童クラブの場合は指導員の先生がいて、遊び方もいろいろ教えてくれて、こういうふうにやろう、ああいうふうにやろうといろいろ考えてやってくれます。ひろばの方は逆に自由に自分たちで使っているよというところですから、その辺はそのひろばのスタッフの方がどのように子供たちと関わるかということが出てくると思います。それは、まさにその学校によっていろいろな違いが出てくると思います。

ですから、そこで今度6年生から1年生の子供がそのひろばというところに来て、上のお兄ちゃんが小さい子と一緒に遊ぼうということをやったりとか、誰かに教わるのではなくて、自分たちで仲間を作っているいろいろな遊んだりというようなものもひろばの特色だと思っています。だから、どちらがいい・悪いという話ではないですし、また、連携することによって、学童クラブの指導員がひろばの子供たちに対して、こういう遊びをやろうということが出来ることもありますし、そういう意味で連携というのをうまく活用していくことが出来るのではないかと思います。

○委員 あと、「安心して」という面なのですが、先ほどパーセントも教えていただいたのですが、子供何人に対して応援団の数が何人という決まりというか、最低の数というのはあるんですか。

○事務局 学童クラブの方は、指導員は子供の数に対して何人というのは決まっているのですが、ひろばの場合はそういうのではなくて、子供たちが遊んでいるところをスタッフの皆さんが見守っているということです。だから、その学校の大きさだとか、

校庭が2つに分かれているとか、そういったことによってそのスタッフの数というのは出てまいりますけれども、基本的には子供が何人だからスタッフ何人というそういう決め方ではなくて、その場所にスタッフがいて、遊んでいる子供たちを見守っているということです。

ただ、もちろん子供たちが危ないことをやっていけばスタッフが注意するというのは当たり前のことですし、昔の町内会であったように、子供たちが遊んでいて、そこに親や隣のおじさんが「危ないからダメだよ」と注意するというような感じのイメージを学校の校庭でやっているというふうに考えていただくとよいかと思います。

○座長　　こどもクラブのほうから連携について何かご経験とかお話ししていただければと思いますけど。

○委員　　私どもの地域の小学校は開進第一小学校で、まだ（ひろばが）始まっていないんですよね。それこそ大規模校なものですから、校長先生も「なかなかうちの学校は始められません」というようなお話をいつもいつもしています。

開一小の場合は、学校内に公営の学童クラブと、その向かい側に私ども民営の学童クラブ、それと平和台児童館に、子供の足で歩いて15分くらいかかるでしょうか、そこにも1つあります。その平和台児童館の館長さんがこの放課後子どもプランにとっても理解が深い方で、「連携をしていこうじゃないか。まあうちの学校は応援団がないけれども、開進第一小学校の子供たちみんな校庭に遊びに来る。」とおっしゃっていました。それについて、館長が橋渡しをしてくださって、児童館の事業に私どもも呼んでくださる、地区委員会の事業にも児童館や公営の学童クラブも参加して、子供たちに声をかけて、ここの学校の子供だから一緒に楽しもうじゃないかというふうに仲を取り持ってください。私どもも気持ちよく参加させていただいて、赤とんぼの行事があるときも、児童館の学童クラブと開一小の学童クラブには「どうぞ遊びに来てください」という声かけをして、来られる子は自由に遊びに来るという形をとっています。ですから、たぶん応援団ができるのはまだまだ最後になるかもしれませんが、なくても上手にお互いを理解し合って、指導員さんともお話もできますので、私どもとしてはいいのではないかなと思っています。

ただ、第二次放課後子どもプランについてなのですが、ちょっと1つ気にかかることがあります。と言いますのは、学童クラブ待機児童の減少というのも入ってい

ますよね。それに際して、放課後、その応援団で子供たちを面倒見てもらうのはいいのですが、仕事をしている家庭の親にとって一番の大きな悩みは夏休みなんですよ。大きな長期の休み期間応援団がないということは、一番親にとって子供が見られない。朝から夕方まで家で何をしているのだろうか、1人で、または兄弟がいたとしても2人で鍵を持たせてそのままでもいいのだろうかという、一番そこが不安な状況になる時期だと思うのです。

日数の拡大というのが一次のところがありましたよね、課題のところ。日数の拡充が必要であるという部分で、もしできれば夏休み期間も多少なりともひろば事業を実施していかれるようになれば理想的だなって思っています。それができれば、本当の意味での放課後子どもプランと学童クラブの待機児解消という意味が含まれるのではないのかなって思います。

○座長 少子化対策から発して、親御さんが安心して子供を預ける場所、保育園なり学童なり、やはり働きながら子供を育てるという中では、いろいろ当然どんどん出てくると思うんですよ。今おっしゃったように、夏休み・土曜・日曜…これ名前が「放課後子どもプラン」だからあくまで放課後なので、拡大して休みの期間でも。今の方は土日働く人も当然出てくるわけで、夏休み期間も働いていますから、そういうところでどうやって安心して子供を預けられる場所があるのかな、そんなような思いもいっぱいあるのかなと思うのですが、いかがでしょうか。これは国の政策といろいろな大きな政策なのでしょうけど。

○事務局 私どももいろいろ考えていますが、今おっしゃったように、夏休みが大きな課題なのかなと思います。片方でまた、地域の方にスタッフとしてやっていただくというところで、どういうふうにやっていくことができるだろうかと。やはり、これは行政側である私たちと地域の方とのいろいろな話し合いの中で、1つの方向を作っていくしかないのかなと思っています。簡単に「こうしなさい」という話ではないですよ。その地域の中でどうやって子供たちの遊び場を受け止めていただけるかという大きな課題になってくるのかなというふうに思います。

○座長 なかなか苦労して大変だと思いますけど、やはり難しいですか、開進第一小学校は。せっかくの協議の場なので、何か参考のためにも、あまり差し支えない程度でいいですけどございますか。何かできない理由がありますか。

○事務局 開一小につきましては、学校と十分にお話をさせていただきながら進めていき

いと考えております。確かにご指摘のとおり児童数が多い学校で、先ほどの大二小もそうでしたが、開一小においてもそうなんです。

また、学校としてはなるべくフルでやっていきたいという意向もあって、条件が整ってからスタートしたいということで慎重になっているところだと思います。今後早い時期にお声かけいただけるものと信じております。そして、来年度の児童数の関係も見据えて進めていきたい、確実なところでやっていきたいという意向をいただいておりますので、私どもとしては来年度立ち上げに向けて進めていきたいと考えてございます。

○座長 段々ほとんどの学校がやりだすと、「なんでうちの学校はないのだろうか」「うちの学校だけ子供預けられないのかな」という親御さんにとっては、段々と情報が入るに従ってそこは疑問に思っている、あるいはその学校を選択する。選択制じゃないと思いますけれども。やはり親御さんにとっては「どうしてうちの学校は預けられないのだろうか」と、なんか損しているような気持ちになってしまったりするかもしれません。その辺はいろいろ今後も大きな問題も出てくるのではないかなと思うのですが。他にご意見ございますでしょうか。

○委員 私の話は逆行してしまうのですが。応援団ができないところがいっぱいある中で、12月5日の土曜日に高小ひろばまつりというのを開いていただきまして。これがプランの中で計画内容に入っているものか、それとも応援団の方が自主的にやっていただいているものかちょっとわからないのですが。子供たちはすごく喜んで、いろんなゲームをやったり、アトラクションをやらせてもらったり、お汁粉を作ってもらって食べさせてもらったりしてすごく喜んでいまして、そういうのが広まっていけばいいなと思います。ちょっと逆行しますけどすみません。すごく子供が喜んでいたものですから、かなり人数も集まって本当にいい会だと思うのでぜひ残していただければと思います。

○座長 「高小まつり」とは応援団まつりのことですか。各応援団が、規模や内容にはいろいろ差がありますが、費用も出て、その中で応援団まつりをやるという。応援団まつりだけでなく、地域や学校の事業とか葉かげの集いとかいろんなものをくっつけてちょっと大々的にやるということもあったりすると思うのですが。

副座長さん、いろいろお話をしたいと思いますが大丈夫ですか。

○副座長 唐突で申し訳ございません。今、子どもありき、居場所ありきの話なのですが、

各応援団が設置されています学校の、事務局のほうで把握されていますスタッフの着任状況というのをちょっと教えていただきたいのですが。いろいろお話をいただいた中で、スタッフのことで問題がある学校がかなりあると思うのですが、事務局が把握されているスタッフの今の着任状況というのはおわかりでしょうか。要するに、事務局とか応援団のスタッフが足りているというか、本当に不足して困っている学校とか、そういう学校はどれぐらいあるのか。自分のところは今困っている状況ですけれども。ちょっと教えていただければ。本当に各学校そろっているのかどうかというのはいかがなものでしょうか。

○事務局 何人いるかというのは把握していますが、それに見合った形でそろっているかどうかというのはなんとも申し上げられません。人数が少なくてもフルでできる学校もございますし、基本的には20人前後いけば週5日できるといった形で進めていただいておりますが、学校によっては4、50人というところもありますし、逆に20人を切って10人前後というところもあるようです。

また、日数が少ないからといってスタッフが集まらないというわけではなくて、多くの学校ではまだ立ち上がって間もないところが多くあるので、そこで必ずしもスタッフが不足しているから日数が少ないということでもありません。それでは、いくつかの学校で不足しているからできないというところまでの正確な把握は申し訳ありませんが、してございません。

○座長 随分ご意見が出て、これを参考にして見直しをしていただければと思います。策定に向かってよろしくお願ひしたいと思います。ご意見のほうはこれでよろしいでしょうか。

それでは次に今後のスケジュールも含めて、その他、事務局からお願いいたします。

○事務局 事務局からご案内申し上げます。本日いろいろいただきましたご意見を参考にしながら、この子どもプラン、今は素案でございますけれども、これをまたさらに充実させてまいりたいと考えてございます。

これからでございますけれども、運営委員会は概ね年3回ということで開催を予定してございます。次回は来年の2月頃の開催を予定しておりまして、放課後子どもプランの案についてさらにいろいろとご機能いただきたいと考えてございます。来年の2月頃の開催を予定しております。あらためてこちらのほうからご都合を伺わ

せていただきたいと考えてございます。よろしいでしょうか。

○座長 2月頃ということで、日程については今日はちょっと難しいということで。前も日程決めたら変えてしまったので、その辺でご迷惑かけたと思うのですが。事務局のほうからあらためてということでよろしいですか、それとも今日程を決めた方がよろしいですか。

○事務局 私どもからまたあらためて皆様にお伺いさせていただきます。

○座長 皆さん2月頃ということでご予定いただければと思います。  
これで今日の会議は終了したいと思います。どうもありがとうございました。

○事務局 どうもありがとうございました。